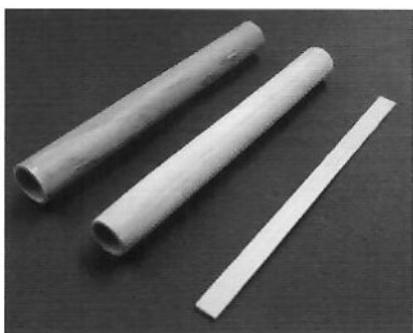
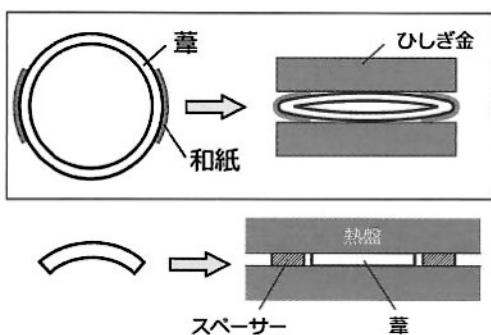


# 雅楽だより

## 《目次》

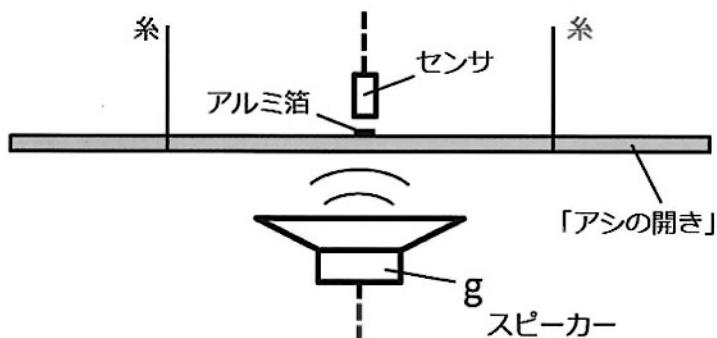
- |               |              |       |                |              |      |   |
|---------------|--------------|-------|----------------|--------------|------|---|
| ●蘆舌用葦材の物性     | II           | 小幡谷英一 | 1              | ●上牧小学校で雅楽の授業 | 中村仁美 | 8 |
| ●正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶 | 三田覚之         | 1     | ●書評『雅楽のコスモロジー』 | 加藤徹          | 10   |   |
| ●芝祐靖先生追悼      | 大理大学雅楽部 佐藤浩司 | 5     | ●情報欄           |              | 10   |   |
|               | 音輪会 川口智康     | 7     | ●『雅楽事典』新装版     |              | 12   |   |
| ●現代音楽の中の笙 (1) | 清水チャートリー     | 7     | ●ヨシ原焼きにみんなで雅楽を |              | 12   |   |



伝統的な「ひしき」に倣った葦の平板加工

葦をひしきとすると、葦の内部の温度は140℃前後になっています。木材の場合、乾いた状態で加熱してもそれほど軟らかくはならないし、大きく曲げることもできません（大きく変形させるためには、湿らせる必要があります）。ところが、葦や竹の場合は、乾いた

状態であっても、加熱しただけで大きく変形させることができます（クーリングセットと呼ばれています）。葦や竹がなぜそのような性質を示すのか、実はまだよくわかつていないのですが、とりあえず今回は、この「ひしき」の手法を真似して葦を平らに加工することにしました。平らにした「アシの開き」を糸で吊り、スピーカーで様々な高さの音を当て、葦がどれくらい振動するかを調べれば、葦の振動特性値がわかります。

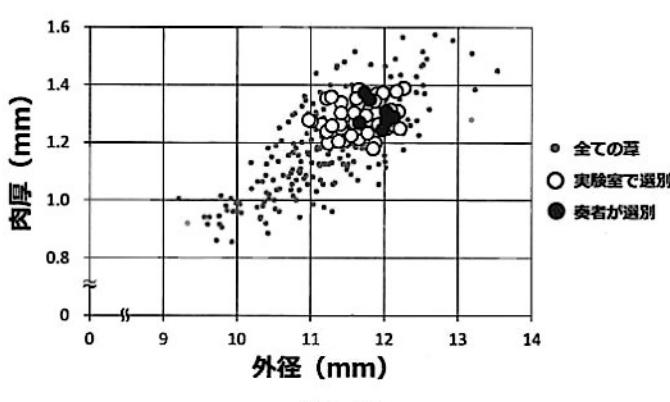


振動特性の測定方法

3. 奏者によって選別された葦材の特徴  
今回まずは、葦刈り職人によって選ばれた鶴殿産の葦69本から279節間を採取し、さらに、事前の聞き取り調査の結果に基づいて肉厚および外径がそれぞれ1.2～1.4mmおよび11.0～12.3mmの範囲にある62節間を選別しました。この62節間の上部を切り取って宮内庁式部職楽部の簾築奏者にお渡しし、蘆舌に使えるものを選んで頂きました。同時に、節間の中央部を平らに加工して、振動特性を測定しました。

下のグラフ①は、試験された全ての節間にについて、肉厚と直径の関係を示したものです。伐採された葦（グレーの点）は、肉厚も直径もかなり広い範囲に分布していますが、奏者が選んだ葦（黒丸）の寸法は、非常に狭い範囲に収まっています。これは、肉厚や外径（奏者が気にするのは内径）が、蘆舌を作る上で非常に重要なことを示しています。

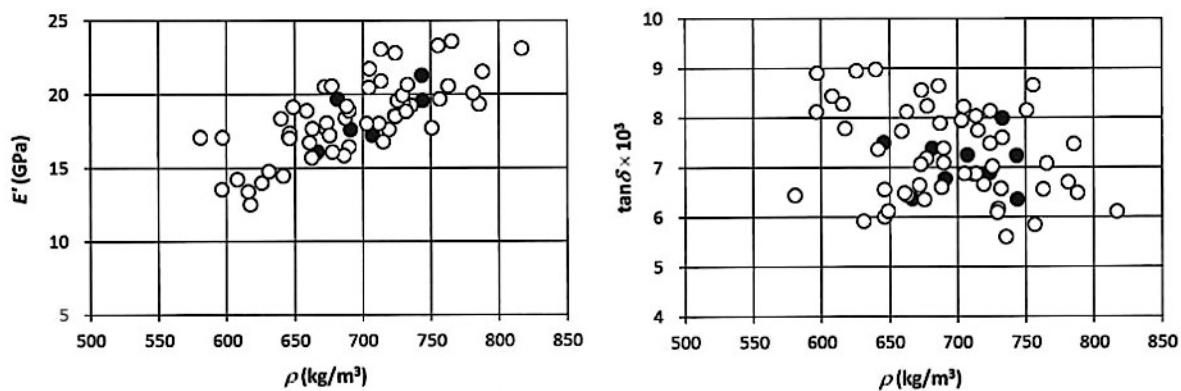
ただし、ここに示した肉厚や外径が「最良」ということではありません。適切な肉厚や径は、演奏団体によつても、また個人によつてもも違います。今回の評価は、あくまで宮内庁式部職楽部の簾築奏者によるものです。団体や奏者によつては、より細い、もしくはより太い葦を選ぶでしょう。同じ式部職楽部であつても、江戸時代にはもつと細い葦を使つてゐたと聞いています。今回の結果から言えるのは、「葦を選別する際、寸法や形状が非常に重要である」ということです。



グラフ①

では、振動特性はどうでしょうか。次頁のグラフ②は、堅さ ( $E$ ) と減衰能 ( $\eta_{ang}$ ) を、密度 ( $\rho$ ) に對してプロットしたものです。黒丸は簾築奏者が選んだ葦で、白丸が選ばなかつた葦です。奏者が選んだ葦は一定の範囲に収まっているように見えますが、特徴的な傾向 ( $\rho$  が大きい、 $\eta_{ang}$  が高い、 $E$  が低い、など) は認められません。

次頁の表①は、奏者が選んだ葦と選ばなかつた葦の様々な性質について、平均値と標準偏差(ばらつきの程度)を比較したものです。奏者が選んだ葦は、若干密度が高いものの、



グラフ②

表① 奏者が選んだ革と選ばなかった革の諸性質（平均値±標準偏差）

	含水率 (%)	肉厚 (mm)	外径 (mm)	密度 (kg/m³)	$E'$ (GPa)	$\tan\delta$ $\times 10^3$
奏者が選んだ革 (9本)	$8.1 \pm 0.1$	1.30 $\pm 0.05$	11.9 $\pm 0.2$	605 $\pm 34$	18.4 $\pm 2.3$	7.1 $\pm 0.1$
奏者が選ばなかった革 (53本)	$8.1 \pm 0.2$	1.29 $\pm 0.06$	11.6 $\pm 0.3$	591 $\pm 34$	18.4 $\pm 3.0$	7.3 $\pm 0.1$

もちろん、これは「振動特性はどうでもいい」という意味ではありません。堅さや減衰能が極端に大きいからは小さな革は蘆舌に使えないはずです（極端に軟らかいゴムや、極端に堅い金属で蘆舌を作つても音が出ないことは容易に想像がつくと思います）。また、内部が黒色の革、断面が極端にゆがんだ革、明らかな腐朽が認められる革は、寸法や振動特性が標準的であつても除外されます。この表が示すのは、蘆舌用革材の「標準的な特性」です。

さて、前回の記事で説明したように、鶴殿の革原では他の植物の侵入により蘆舌に適した革が育ちにくくなっています。そこで現在、他の植物が繁茂しているエリアを刈り払い、別の場所で育成した鶴殿の革を植え直すことにより、「蘆舌用の革原」を再生しようとする試みが検討されています。ここに示した標準的な特性は、再生された革が蘆舌に適しているかどうかを客観的に評価するのに役立つと期待されています。

#### 4、おわりに

本稿のおわりにあたって、箏築奏者のみなさんに考えて頂きたいたことがあります。クラリネットの世界では以前、「南仏のヴァール地方の革が一番良い」と信じている人がたくさんいました。でも今ではそんなことを言

堅さや減衰能を見る限り、選ばなかった革との差はありません。つまり、適切な寸法の革であれば、振動特性についてそれほど厳密な条件はない、ということになります。

もちろん、これは「鶴殿産の革だから良い音が出ない」と言う奏者は、おそらく、鶴殿の革を使っても良い音を出せないでしょう。重要なのは、産地のブランドネームに頼るのではなく、奏者個人が自分に合った革（の寸法や性質）をきちんと自覚することだと思います。本稿をきっかけに、奏者のみなさんが革原の現状や革の性質について正しく理解して下さることを心から願っています。

人はほとんどいません。フランス以外でも、アメリカやメキシコ、アルゼンチンなどで大規模な栽培が行われ、質の高いリードが安定供給されています。

本稿で明らかのように、ひとことで「鶴殿産の革」と言っても、その性質には非常に大きなばらつきがあります。生物材料学の観点から言えば、「鶴殿産の革なら良い音を出せるが、○×産の革では良い音は出せない」ということは絶対にありません。「この蘆舌は○×産の革だから良い音が出ない」と言う奏者は、おそらく、鶴殿の革を使っても良い音を出せないでしょう。重要なのは、産地のブランドネームに頼るのではなく、奏者個人が自分に合った革（の寸法や性質）をきちんと自覚することだと思います。本稿をきっかけに、奏者のみなさんが革原の現状や革の性質について正しく理解して下さることを心から願っています。

#### 資料

[一] E.Obataya ほか Holzforschung 53(1), 63-67 (1999).

[二] E.Obataya ほか J.Acoust.Soc.Am. 106(2), 1106-1110 (1999).

[三] 小幡谷英一・中西遼・木材学会誌 65(3), 131-137 (2019)

#### 謝辞

本研究は、日本学術振興会・科学研究費補助金の助成を受けて行われたものであり、特定企業の利益や民間団体の主張とは一切関係

ありません。研究の遂行に当たって、以下の方々より様々なご助言、ご協力を頂きました。

ここに記して謝意を表します。

・宮内庁式部職楽部(蘆舌用葦材の評価試験)  
・木村和男氏、平城健次氏(葦の選別と伐採)  
・西日本高速道路株式会社(資料および試料の提供)

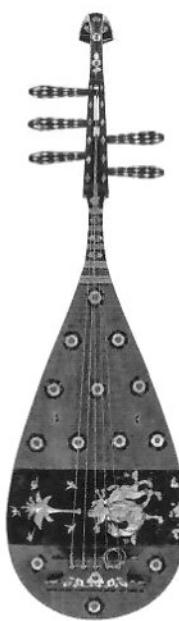
(一頁4段より)

この年、五十六歳で崩御された聖武太上天皇の四十九日忌に際し、光明皇太后は遺愛の品をはじめとした六百数十点の宝物を東大寺の大仏(廬舍那仏)に奉納された。この時の目録である「國家珍宝帳」には、宝物を見ると昔を思い出して崩れ落ちてしまう思いがあり、奉納という善行によって、早く本上天皇の御靈が廬舍那仏の淨土で最高の悟りに達せられるようにとの願いが記されている。

一二六〇年以上の時を経て現代に伝えられている宝物の背後には、最高の宝物を亡き夫のために捧げた光明皇太后の深い愛情と、その願いを守り続けた先人の努力があつた。

螺鈿紫檀五絃琵琶譜

正倉院宝物の特徴として、多様な国際性が挙げられる。八世紀、東アジアの超大国であった唐にはシルクロードを通じて西アジアやインド、東南アジアの多彩な文化が集積されていた。遣唐使を通じ、唐の文化を積極的に取り入れた古代日本にもその影響は及び、壮大な国際交流の精華が文物として残されてい



螺鈿紫檀五絃琵琶譜（表）  
正倉院宝物



螺鈿紫檀五絃琵琶譜（裏）  
正倉院宝物

そうした宝物の中には楽器も含まれる。聖

武太上天皇の遺愛品や東大寺の法要で用いられた楽器が数多く伝えられており、まさに正倉院こそは古楽器の宝庫である。

なかでも正倉院を代表するのが螺鈿紫檀五絃琵琶。

「國家珍宝帳」に聖武太上天皇の遺愛品として記されるこの楽器は、世界に唯一現存する「五絃」の琵琶としてあまりに有名である。通常の琵琶は「四絃」で、絃門と呼ばれる絃を收めるために削り貫いた頸の上部が後方に折れ曲がっている。これは古代ペルシアに起源を持つ形と考えられており、一般に琵琶といえば四絃琵琶を指す。

これに対し五絃琵琶は絃門が真っ直ぐである点に特徴があり、古代インドにその起源を持つという。古代深度のアジャンター石窟(五六世紀)や中央アジアのキジル石窟(六七世紀)、また敦煌莫高窟(七~八世紀)の壁画に五絃琵琶が描かれていることから、古代では広範囲にわたって流行したようだが、その後失われてしまい正倉院のものが唯一の現存例である。

この琵琶の本体は槽(背面)がシタン、腹

板(正面)がシオジもしくはヤチダモで作られ、頸より上部もシタン製である。表面は玳瑁(ウミガメの鱗甲)と夜光貝による螺鈿によつて華やかに装飾されている。

特に演奏の時に撥を受ける押撥の部分には玳瑁の他に螺鈿でフタコブラックに乗り琵琶を演奏する人物が表されており、琵琶とその楽曲がシルクロードを通して東方世界に伝えられたことを象徴しているかのようである。

なお、この人物が演奏するのは四絃琵琶であり興味深い。

背面の槽にはまた玳瑁と螺鈿により、大変空想的な花模様)が表されている。中央に咲いた大輪の花を聞うように茎が伸び、そこからまた各種の花が咲き乱れるという華麗なもので、古代東アジアの工芸美術における最高の出来栄えを示すと言つて過言ではない。

琵琶の装飾にみる浄土世界  
ところで、螺鈿紫檀五絃琵琶は何故こんなにも華やかに装飾されているのだろう。楽器の形が美しいというのは洋の東西を問わず普

遍的なものだが、これほど装飾されたものはそう見当たらない。純粹に音色の質を高める立場からすれば、本体と異なる素材を数多く嵌め込む装飾は邪魔ですらあるだろう。

その「過剰な」装飾を考える上で参考したいのは、阿弥陀浄土圖における演奏の表現である。敦煌壁画や奈良・當麻寺の綴織當麻曼荼羅で知られるように、七世紀から八世紀にかけて「觀無量寿經」に基づく阿弥陀浄土圖の大作が数多く作られているが、その下方には必ず楽器の演奏場面が描かれる。舞樂会とよばれるこの場面は、極楽の宝地に設えられた舞台上で童子の舞を中心に行菩薩たちが琴や筆簾、琵琶や箜篌を奏でるというものである。同経には楽の音について「このもろもろの音の中に、みな、仏を念じ、法を念じ、比丘僧を念することを説く」とあり、楽の音色は仏の教えでもある。

華やかな宝相華に彩られた螺鈿紫檀五絃琵琶は、まさにこの浄土世界の楽器を連想させる。この世のものとは思えない美しい琵琶は淨土の音色をこの世界にもたらすに相応しいと言えるだろう。

聖武太上天皇は仏法によりこの国を安定させるため、東大寺の大仏をはじめ諸国に国分寺を建立された。仏法の庇護者として天皇は菩薩であり、この螺鈿紫檀五絃琵琶をはじめ

とした愛用の楽器は、演奏の道具という機能を超えて、極楽浄土の情景をこの世に再現する装置でもあつたのではないかと想像する。

昨年秋、螺鈿紫檀五絃琵琶をはじめ、紫檀木画槽琵琶、紅牙撥縦撥、甘竹簫（排簫）といった楽器が、御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美」（東京国立博物館）において十月十四日（月・祝）～十一月二十四日（日）の期間で公開されている（ただし、十一月六日（水）からの後期展示では、螺鈿紫檀五絃琵琶と紅牙撥縦撥は模造作品）新たな御代のはじまりに際し、理想世界の楽器たちに是非とも会いに来て頂きたい。

（令和元年十一月九日 国立劇場雅楽公演

「雅楽 アジアの響き」プログラムより）

を頂いております。

先生には、伎楽の復元がなった翌年、昭和

56年（1981）2月15日の第6回東京公演（イイノホール）にて「永年の夢」と題して、

伎楽に対する先生の思いを述べられています。中でも、「懷中譜、教訓抄に記された伎楽は、相当に雅楽化されたもので、音楽の上では当時を伝えるとは思えません。このたびの作曲の裏付となつたものは、日本最古の音楽書といわれる『五重・十操記』です。【鑒

龍雅正は興隆の声、靡漫鄭邪は衰微の音なり云々」と、みたらな音楽を戒める言葉があります。また、笛音樂の悪例として、辻猿樂、推打吹、多輪転、田樂利などを挙げています。五重記（尾張連浜主）に靡漫鄭邪といわれ、十操記（貞保親王）に笛の悪例として挙げられたものこそ「伎楽」であり、その笛音樂だったという気がしてなりません。」とのご意見は、伎楽の特に音樂に寄せられる並々ならぬ覚悟を感じさせられます。以後、先生は昭和58年から平成26年まで、毎年、雅楽部のパンフレットにご寄稿頂きました。それ以後は、伎楽の曲を毎年1曲ずつご提供いただいており4回までつづきましたが、残念ながら雅楽部の公演が途切れた時でしたので、昨年東京の公演が再開された後にも、伎楽曲の再録は叶いませんでした。ここで先生のご寄稿頂いた文章の一部を紹介させて頂きます。

（昭和58年11月8日、虎ノ門ホール）

芝祐靖先生は、私どものテーマに即して、伎楽の曲を作曲して下さいました。伎楽の曲が揃つた頃、ボストン美術館での演奏に招かれ、演奏することになりました。伎楽の帰朝

子の出現によって酒宴の席から次第に姿を消し、寺院の法要や神社の祭典音楽となり、莊重感をかもし出すために、やたらリズムはスローになつて、もとの宴会用の樂舞とは異質なものになりました。考えようによつては、

それだからこそ千年の伝承が可能になつたとも言えますが、芸術文化としては、なにか本質が失われたように思えてなりません。」

「雅楽と花」

（昭和59年11月7日、読売ホール）

「およそ二百年の伝承を誇る雅楽ではあります。現在では、そのほとんどが形骸化して、音と技のみの伝承となつてゐるよう思えます。このような時に、天理大学雅楽部が、一つのテーマを捉えて、さまざまな角度から雅楽との結びつきを探ることは、まさに「温故知新」、これから雅楽には欠くべからざる行動と大いに期待しております。」「神樂歌に代表される古代歌謡の中から、文字上の「花」を探してみましたところ、不思議な現象があるのに初めて気付きました。神楽歌、東遊歌、大和歌、詠歌など神事に用いる歌謡、数十首の中には、「花」という字も花の名も、まったく出てきません。神楽歌とさ程遠くない萬葉集には、梅、桜、橘、葦、紫陽花、瞿麥、杜若、桃、山振など、ざつと目を通しただけで三十種の花の名があり、まるで

になぞらえて、菊、尾花、藤、紅花、水仙の「五花」を選んでいます。

「トリとめのない話」

（昭和60年11月5日、一ツ橋ホール）

「私達の祖先はかなり古くから「鳥」の存在をことさら意識していたように思われます。鳥たちが空を飛べるということは、すなわち天空の神の居所に行けるという意味に通じ、鳥を使ふとしてあがめ、また、愉しげで清らかな鳥たちのさえずりを神の声と聴いていたことでしょう。古代樂器である石笛や土笛の発生も、その音色から想像しますと鳥たちの鳴き声に似た音色を発するようを作られているように感じられます。古代人は、これらの笛を演奏することによって神様と会話ができると信じていたのでしょうか。先生は、「五声」に、鳳凰、鶴鵠、鶯、時鳥、百舌鳥の「五鳥」を当てています。

「泰平の雅楽模様」

（昭和62年2月28日、虎ノ門ホール）

「雅楽愛好家の多くは、悠長で媚びることなく、淡々と進められてゆく雅楽に、古代への憧憬を満たしてくれるものがあり、その中へ身を置くことによって、現代の焦躁感や不安感を和らげてくれる一種の催眠的効果に魅力を見出している。また、作曲家にとっては、時間を超えたような緩慢なリズム、変化にとぼしい音型や音量、まるで眠つてているような雅楽の響きに、西欧の音楽とは異なる創造の世界が感じられるようであり、「悠久無邊のスケール」「宇宙観的な魅力」「純粹さと神秘さ」「自然発生的エネルギー」などの観

点にたつて、かなり自由な発想による新しい息吹を与えることができる格好の音素材と考えられている。それで私たち雅楽人は……手の内は明かさないでおこう。しかし近頃、このブームの底辺を支えるべき我々の「雅楽の理」が、ともするとブームに麻痺し、徐々に削がれているように思えてならないのである。ブームが去った後に残つたものが「雅楽太」では洒落にもならない。この泰平の世にこそ、雅楽本来の伝承保存と創造の両輪が、高度の芸術性、格調の高さ、美的感覚などの上で回転してこそ、次の世代への貴重な贈りものとなり得るのではないかどうか。」

#### 「明治雅楽人の聲音」

(昭和63年3月5日、虎ノ門ホール)

先生は、「樂道の維新」とも言える明治初年の動きを紹介し、「伶人たちにとって晴天のへきれき」とも言える建議、つまり「明治七年十二月、時の太政大臣三条実美の命令のもと、伶人伶員たちは歐州樂の特訓を始めなければならなくなりました。時勢の変遷とはいえ、思いもよらぬ方法転換に伶人の苦労は益々増えるばかりです。しかし、伶人魂は見事にこの難関を乗り切つて日本初の歐州樂大演習(オーケストラ)を演奏し、今日の洋樂興隆の礎となりました。」と述べています。

#### 「今昔=すめうきと音樂」

(平成元年3月4日、虎ノ門ホール)

「古代(西暦200年)、中世(西暦1107年)、現代(昭和63年)と900年の間隔をおいて記した一事例の共通点は「天皇と音樂」なのです。天皇家の行事が永い歳

月の経過でさまざまに変化しても、常に欠くことのできない存在であり続けたわけです。」「陛下が神嘉殿において、新穀新酒を皇祖はじめ神々にお供えになり、神の恩恵に感謝したのち陛下自らもお召し上りになる神事「新嘗祭」は、宮中恒例祭典の中で最も重要なものです。儀式は宵・曉の二部に別れ、夕方6時より深夜1時半まで行われています。その間、神嘉殿の前提には庭燎が焚かれ、宮内庁樂部樂師の歌う神樂歌が静かに流れます。その莊厳さは言葉には表せないほどです。この他に神樂舎では「御神樂之儀」という古代からの連續と続いている音楽儀式も行われています。天皇陛下は、賢所祭事を重視されて常に国家の平和と安泰を祈願されていられるのです。」

(平成2年3月4日、虎ノ門ホール)

先生は、白樂天の詩「花下忘帰因美景 前勤醉是春風 秋月高懸空碧外 仙郎靜斂禁闈間」を冒頭に掲げ、「どちらかというと、騒々しいお花見の宴会よりお月見で静かに一杯やる方が好きで、桜の花の宴に参加した記憶がなかつたのですが、近ごろ芸大の雅樂部の連中が、学校の近くの桜の名所「谷中の墓地」で花見の演奏と宴をするようになり、やむなく参加しております。お神酒が入つてしまえば周りの騒ぎなどどこ吹く風と、学生諸君と一緒に氣勢を挙げてしまうのですから、やむくなくという言葉はあてはまらないかもしません。」と記し、学生との宴に満更でもない様子。この後、「大嘗祭」について述べ、

昭和の大嘗祭の様子を、芝祐泰先生の『風俗歌舞考』(中巻)によつて、「悠紀」「主基」の歌詞と儀式を紹介しています。先生は、大嘗祭を京都御所で行つてほしいと思つていらしゃいましたが、平成は叶いませんでした。「黒皮のパスポート」

(平成3年3月2日、虎ノ門ホール)

昭和34年5月20日宮内庁樂部の初の海外公演に持参したパスポート。「お別れの会」の折、会場に出発時の写真が展示されました。海外公演の様子を記した文で、国連本部総会議場での公演の後、「当時の事務総長ハマード氏を囲んでの記念撮影や茶話会がありました。そこで、そのおり、ニューヨーク・フィルの指揮者、レオナード・バーンスタイン氏が『まさか諸君は西洋音樂はやつていらないだろうね。傳統音樂を守るには西洋音樂をやつてはいけない。』というような話をしましたので、樂部で雅樂と洋樂を並行している一同、シユンとしてしまつたシーンもありました。」と告白しています。これは、とても重要なことで、考えて頂きたいものです。追記で、30年振りにあつたゴードン夫人が、覚えておられたこと、私どもも、昭和59年に挙行した第8回海外公演で、2月23・24日に元気なゴードンさんにお会いし、その折、お母様のシロタさんもお元気でした。どなたも今は鬼籍に入られているのは、残念です。

(平成4年2月29日、虎ノ門ホール)

「欲しい力・要らない力」

雅樂部は、昭和26年の創部です。先生は、

雅樂部創部の頃に思いを馳せておられました。「昭和26年、私が樂部の本科樂生に入学したころの樂部は、戦中戦後の混亂(戦死者、退職者)からの立ち直り、再び「雅樂の殿堂」としての責任をはたすべく始動し始めたころに思えます。我が國の雅樂界における宮内庁樂部の存在に、確固たる意識を持ついる明治生まれが上層部にアント控えていて、演奏や指導に盤石な態勢を整えていたよう思えます。樂長に蘭廣茂先生、安倍季嚴先生、樂長補に東儀兼泰先生、蘭廣進先生、芝祐泰(父)、また樂師の上位に辻寿男、東儀和太郎、豊雄秋、多久久尚、林多美夫の諸先生方がおり、今日、雅樂人の一人として生きられるのは、これらの諸先生方のご指導によるものがすべてであると感謝している次第です。」「安倍樂長をはじめとする明治生まれの樂人の指導力、團結力、そして雅樂發展への氣迫と実行力はまことに素晴らしいものでした。それから四半世紀が過ぎ、最近の「雅樂」は若い人々がかなり増えて、静かなブームといわれていますが、何か一本芯が通つていな不安な状態に感じられます。これは雅樂を支える世代が明治から大正・昭和と移行し、雅樂の基本理念や宗教意識を次第に見失つてしまつた結果といえましょう。」この文章の後に、笛を鳴らすコツについて述べおられます。

(次号へつづく)

芝祐靖先生のご冥福を  
お祈り申し上げます。

音輪会 川口智康

当会は関西でも芝先生の雅楽の指導を受けたいという思いから平成8年に発足いたしました。発足当初より当会音楽監督としてご指導頂き、昨年の第19回演奏会にも第二部雅楽アラカルトにてご出演頂きました。

ご指導の合間には今の雅楽は京都で完成されたと説かれ、京都で雅楽を演奏することの重要性を常に話して頂きました。

京都にちなんだ催馬楽を多く選曲頂き、中でも梁塵秘抄より引用された綾衣傘は、鴨川に流れる傘と男女の想いを曲にされ、冒頭の「君」の発音についてのイメージをお話しえきました。未熟な我々演奏者に伝えて稽古したことを見えていました。

常に聞く側の気持ちを第一にされており、突然演奏曲が変わることもありました。また雅楽アラカルトでは当日に資料をお持ちになられ、急ぎコピーしたことを覚えていました。いつも演奏会が始まるまで気が抜けませんでした。今では先生と各演奏会を結びつける良い出来事だったと思います。

昨年の曲目は管絃では承和楽や海青楽などを作曲したといわれる大戸清上が作曲した清上樂。舞楽では続かがあったのではないかと考えられ、先生が急を補曲した散手破陣樂と、先生が京都の骨董店で一目惚れした面をお借りして舞う貴徳を演奏いたしました。

技術はもちろん様々な事をご指導ください

ましたご恩は決して忘ることはできません。先生から頂いたご縁で結ばれた雅楽の道を一步ずつ歩み、ここ京都に残して参ります。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げま

す。

### 現代音楽の中の笙(1)

#### 笙と西洋五線譜

##### 清水チャーテリー

ここ3年ほど、ほぼ毎月、アメリカやヨーロッパの大学に招待していただき、現代音楽作曲家の視点で笙の紹介をさせてもらっている。当時は、雅楽の紹介や、笙の楽器法について話して欲しい、という依頼が多くあったのだが、2018年6月に米テネシー州ノックスピルで開催された『New Nordic Research Summit: NEW ASIA』にて『Shō in Compositions Today』と題した論文発表を行ってからは、笙の現代音楽作品の分析を授業で行って欲しい、といったメールが月に1、2件届くようになつた。

興味を持って教室に足を運んでくれるのには、電子音楽専攻を含む作曲科や音楽理論科の学生たちがほとんどだが、音楽学を勉強している学生たちがほんんどない。講義では、学生の興味のある分野を見極めるよう、心掛けている。作曲科の学生の比率が多い場合は、作曲技法や特殊奏法、記譜法などについて詳しく紹介するが、音楽学の学生が多數の場合には、戦後作曲された笙の作品の紹介・分析などに重点を置くことにしている。

しかし、学生の専攻に関わらず、必ず話す



ニューヨーク市立大学バーク校で行った講義の様子（2019年3月）

のが、笙（雅楽）の時間性のことだ。音楽には大きく分けて、三種類の時間性があると考えている。一つ目が、西洋音楽の楽譜（西洋五線譜）に多く見られる、メトロノミカルな時間性。譜面上にメトロノーム記号と拍子記号が記譜されており、ブライアン・ファーニホウの作品に見られるような、難解なリズム表現を厳格に記譜するのに適した時間性だ。

二つ目が、一部の雅楽曲などでも見られる、コノメトリカルな時間性。客観的に数値化できるテンポ指定やリズム指定はなく、拍の伸縮率が奏者に委ねられている時間性とも言える。そして三つ目が、イデオマチックな時間表現を厳格に記譜するのに適した時間性だ。

笙（雅楽）の持つコノメトリカルな時間性を理解するためには、雅楽を聴くことは元より、雅楽譜とその機能性を学ぶことが必要になる。ただし、それは合竹の有する音楽的情報を、西洋五線譜の音高と持続という二つのパラメーターに落とし込むことだけでは十分ではない。西洋五線記譜法に従つて合竹の有する音楽的情報を書き写した場合、拍の伸縮をはじめとする雅楽の伝統的な持続表現を明瞭に表示することは不可能である（それ以前に雅楽の拍という概念は、メトロノミカルな西洋五線譜的発想から思索すると、単なる暗示に過ぎないため、その持続を明瞭に表示する必要性はないのだが）。なぜなら原則的に、西洋五線譜には指定されたテンポに相關性のある音価が相互的に機能するという図式が存在し、そのシステムを使用した記譜上にて、奏者に拍の伸縮率を委ねる行為は、非合理的とも取れるからだ。

笙は外来音楽として日本に取り入れられ、演奏されてきた歴史の大半は、機敏な運動性を求める新規開拓を担う楽器として演奏されてきた。楽器の構造上、キーのあるフルートや、鍵盤楽器であるピアノなどと比較する

までもなく、運動性が低いという特徴を持ち、その特殊性が、戦後音楽の作曲家の目に留まっているという現実がある。よって、笙作品を作曲する場合は、(個人的な美学的嗜好の誇示になってしまい申し訳ないのだが) 優格なテンポ指定や拍節の記譜は、それらを記譜せざるを得ない音楽的重要性が見当たらぬ限り、使用は避けるのが良いと考える。

笙(雅楽)の持つコノメトリカルな時間性を最大限生かすため、現代の作曲家は西洋五線譜を多様にアレンジし、試行錯誤(と表現すると作曲家の先輩方からお叱りを受けかもしないが)を繰り返してきた。その中で私は、作曲家・石井真木(1936~2003)の記譜を参考にさせてもらっている。『笙とチエロのための音楽』(1988)は西洋五線譜で記譜されているのだが、楽器の特性に考慮したものとなっている。より具体的に説明をすると、この作品にはテンポ指定や小節などが用いられておらず、作曲家が考える大きな音楽的フレーズからなる14ものセグメントに分かれている。セグメント番号の表記に続き、そのセグメントのおよその演奏時間が秒数で記されている(ca.は circa の省略形であり、ラテン語で「およそ」を意味する)。

また、各音の持続は、音符より時間軸に沿って伸びる横線で示されており、その精確な長さは演奏者の裁量に委ねられている。この作品はデュオのために作曲されたものであるため、小節が用いられない中、二人の演奏者は互いのパートを聞き合いながら演奏を進

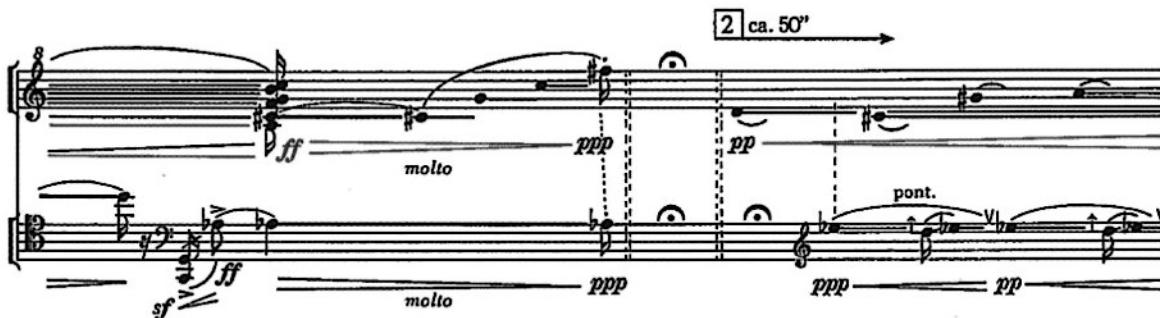
めることになる。この現象は、ある程度どの音楽文化にも当てはまるが、この場合、雅楽の合奏法を意識して書かれた楽譜だと私は考えている。また作中、随所に見られる、笙とチエロの特定の音符、もしくはそこから派生する持続音を繋ぐ、縦に引かれた破線は、各パートの演奏上の同時点を表しているとともに、曲の速度を整える役割を果たしている。

無論、『笙とチエロのための音楽』以外にも、多くの笙の現代作品に、コノメトリカルな時間性を際立たせる記譜法が使用されている。増本伎共子氏(1937~)の『月』や、ポール・メファン氏(1937~)の『La Matrice Des Vents』など、記譜へのアプローチは大いに異なるものの、笙の楽器構造や雅楽の時間性への考慮が譜面上から読み取れる。

現代音楽は、まさに今、その定義や様式が形作られている音楽ジャンルである。難解な理論や概念を制作に取り込む作曲様式が根強く残る中、作曲家自身の自己表現をより重視する傾向が着実に深化しているよう感じる。正解のない現代音楽だからこそ、笙の作曲に関しても、個々の作曲家が表現したい内容をより反映できる記譜法が用いられるべきだと考え、海外の作曲家たちにそれを伝えている。

清水チャーチリー

現代音楽作曲家。大阪生まれ。国立音楽大学を首席で卒業と同時に有馬賞受賞。米コロンビア大学芸術大学院修士課程を修了。ヤドー財団コンポーザー・イン・レジデンス、



石井真木《笙とチエロのための音楽》Copyright © by Mannheimer Musikverlag GmbH, Administered by Rob. Forberg Musikverlag GmbH. All Rights Reserved. International Copyright Secured. Reproduced by kind permission of Hal Leonard Europe S.r.l. - Italy

### 上牧小学校で雅楽の授業 中村仁美

今年も上牧小学校の6年生に雅楽の授業をしました。簞篥の蘆舌(リード)用のヨシが生えているヨシ原のすぐ横にある小学校です。

簞篥を見せて、この吹き口は何でできてる?と聞くと「ヨシ!」と答えてくれます。どこのヨシ?と聞くと「ここ」と窓の外を指します。おー。さすがよく知ってるね。4年生の時にはこのヨシでよしづ作りをしているそうです。

感じたことを素直に表現してくれる子供たちで、友達とも仲良くやり取りしながら簞篥や龍笛の音を出していました。

下校の途中にもう一度教室に来て、面白かった!と言ってくれる子もいて嬉しいなあ。簞篥の蘆舌のように潰して削るのはなかなか難しいので、手作りヨシ笛(きり出しリード)を去年紹介したのですが、なんと校長先生が自分で作って吹いてくれました!10本くらい作って試してくださいました!10本くする先生、素敵です。また来年も行きたいな。上牧小学校での授業の後は、長年ヨシ刈りをしてくださっている木村さんに案内してい

三菱財團フェロー等を経て、2018年、ドイツに拠点を移す。現代音楽としての笙の記譜法や特殊奏法について、コーネル大学、ブルトリコ音楽大学、ストラスブル音楽大学などで特別講義を行っている。ドレスデン在住。



筆箋の演奏の指導をする中村仁美さん。ヨシ原から一番近い上牧小学校での雅楽の授業。



写真① 上牧・鶴殿ヨシ原で高速道路建設の工事が進む。右側のクレーンがヨシ原の中に建つ橋脚の基礎工事。左側のクレーンは対岸の工事。

(ヨシ原の写真①～⑤と説明文は鈴木 2019年11月26日撮影)



写真③ 何の対応もされずにつる草や雑草が伸びているところは、ヨシが押し倒されていく。ヨシ原にはこのようなところがとても多い。



写真④ 左側は定期的につる草などを除去しヨシの育っているNEXCOの調査地域、右側は何も手を入れないヨシ原。左と右の境目は一目瞭然。左側の定期的に手を入れる地域はヨシが育つが、何もしない所は、つる草に覆われている。右側も定期的につる草を除去すればヨシが育つだろう。

ただいて、筆箋蘆舌の材料となるヨシの生えている淀川沿いの河原を案内していただきました。

高速道路の工事は着々と進んでいるらしく、土手の上からも高いクレーンなどが見えます。高圧線の鉄塔は道路の邪魔にならない所にすでに移動が済んでいました。

そして、ヨシ原。暖かいのでまだ枯れていません。気になるつる草ですが、道路から淀川が丸見え。つまり以前は高いヨシやオギが生えていたのに、ここ数年毎年つる草に押し倒されて、高い草が無くなってしまったのです。恐ろしや。いつか道路の反対側も……。ヨシ原は5年ほど前とは全く違ってしまっています。恐ろしや。いつか道路の反対側も……。

いい蘆舌が作れそうな硬くて太い立派なヨシも、つる草にからめとられては、どうしよう

うもありません。悲しい。年々被害が拡大してヨシ原がつる草に征服されていく。なんとかできないのか。

今年は、地元の方、河川事務所の方が、5m四方ほどの場所に試験的に木のチップを敷いて、つる草の発芽を抑えられないのか、実験してくださっています。当初かなり実効性がありそうだったのですが、周りからつる草が伸びてきたり、雑草が生えてきたりして、その効果は刈り入れ時にならないと検証できません。また、木のチップを長年敷いた場合の弊害を考える必要もあります。そして、ヨシ刈り入れをしてくださる地元の方も高齢化が進み、今年は○×さんも刈るのをやめたらしい、という話。小雨の降りそうな曇り空の中、重い気持ちでヨシ原を後にしました。



写真② 木材チップを敷いた箇所。チップを敷かない箇所に比べるとつる草や雑草は少ないが、周りからつる草が忍び込む。また木材チップは時間の経過とともに土に還るので、数年後はつる草や雑草などが一層繁茂するため木材チップを敷いての対応は難しいとのこと。



写真④ NEXCOが毎月1回程度定期的に専門業者に依頼してつる草などを除去する調査区域。つる草などを除去しているのでヨシだけが生育している。

書評 加藤徹  
(中国文文化学者 明治大学教授)

『雅楽のコスモロジー』 小野真龍 著

キリスト教の音楽は、ユダヤ教やイスラム教では演奏しない。約1400年の歴史を持つ雅楽は、仏寺でも神社でも、宮中でも演奏する。神仏習合、という単純な話ではない。著者は言う。

「雅楽の背後には、カミ・ホトケ・スマラミコトがせめぎ合つて織り成した歴史の壮大な宗教的空間が広がっているのです」

奈良時代の大仏開眼供養会は、日本雅楽の成立前夜祭とも呼ぶべき一大イベントだった。天皇の統治を仏法で権威づける意図があつた。が、皇統神話の血統主義と仏法救済の平等原則の違いは大きい。仏法での権威づけは、かえつて王法の権威を弱めるという矛盾。道鏡事件や神仏分離は矛盾が顕在化した例だ。日本の神仏は「習合」はしても「融合」ではない。国家を含めたせめぎ合いは現代も続く。

雅楽の宗教性と、その背後にある日本人の靈性を説き明かし、日本史の機微を浮き彫りにする著者は、聖徳太子以来の伝統をもつ天王寺楽所の雅楽の伝承者であり、京大の博士学位をもつ学者であり、浄土真宗の住職でもある。知的でスリリングな本だ。(法藏館、四谷区民ホール)  
(1月24日付 読売新聞 全国版「本よみうり堂」より)  
2200円

## 冬～春までの主な雅楽演奏会など

NHK Eテレ 舞楽

演奏 伶楽舎

問合せ TEL 03-5269-2011

相愛大学伝統芸能育成プログラム

主催 株式会社AMATI

問合せ TEL 03-3560-3010

1月1日 (水) 午前 舞楽 太平樂 演奏 宮内庁式部職楽部

1月8日 (水) 午後2時より 舞楽 振鉾 賀殿 登天樂 還城樂 長慶子 演奏 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月1日 (水) 午前5時 岐阜県・地久祭 振鉾 管絃 ほか 演奏 宮内庁式部職楽部

1月11日 (土) 午前10時・午後1時 卵杖舞 扇舞 竹川半首 萬春樂 何ぞもそもそも 武満徹「四季」 演奏 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月5日 (日) 午前5時半より地久祭の祭典 後舞樂 甘州 林歌 拔頭 還城樂 演奏 岐阜県・地久祭

1月13日 (月・祝) 午後1時 伊勢神宮 御饌 東遊 演奏 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月2日 (木) 午後1時 舞楽 萬歳樂 延喜樂 演奏 岐阜県・地久祭

1月11日 (土) 午後1時ごろ 内宮神楽殿東隣 演目 東遊 演奏 中谷満 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月5日 (日) 午後4時半 舞楽 還城樂 (左) 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後1時 林檎の庭 演奏 南都楽所

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月3日 (金) 午後1時 舞楽 太平樂 狐杵 胡德樂 蘭陵王 納曾利 長慶子 演奏 上賀茂神社 新年竟宴祭

1月13日 (月・祝) 午後1時 伊勢神宮 御饌 東遊 演奏 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月2日 (木) 午後1時 舞楽 萬歳樂 胡德樂 蘭陵王 納曾利 長慶子 演奏 上賀茂神社 新年竟宴祭

1月13日 (月・祝) 午後1時 伊勢神宮 御饌 東遊 演奏 天王寺楽所 雅亮会

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月5日 (日) 午後4時半 舞楽 還城樂 (左) 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部7時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部7時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部7時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

1月24日 (金) 午後6時半 無料要事前申込 東大阪市文化創造館大ホール

1月6日 (月) 午後の部2時半 芝祐靖復曲「盤渉参軍」全曲演奏 演奏 平安雅楽会

1月13日 (月・祝) 午後2時 S席4千円 A席3千円 車いす席3千円 学割有

舞楽	振鉢三節（鎮歌付）	胡蝶・陵王（童舞）	御神樂一具（要約版）
演奏	多度雅樂会	春鶯鶯一具	の解説
問合せ	℡03-3630-0038	（東京）	
睦月神明雅樂			
1月26日（日）午後5時			
下神明・天祖神社境内			
舞楽	萬歳樂	延喜樂	
演奏	雅樂道友会		
問合せ	℡03-3783-2371		
春日大社 節分	万灯籠		
2月3日（月）午後5時半ごろ			
舞楽	納曾利	直会殿	
演奏	南都樂所		
問合せ	℡0742-22-7788		
NPO法人高齢者大学	舞楽		
舞楽	承和樂	抜頭 長慶子	
演奏	天王寺樂所	雅亮会	
2月5日（水）午後1時半			
大阪歴史博物館	梅香る庭園へ	小石川後樂園	
			（東京）
2月9日（日）午前11時半、午後1時半			
入園料必要	主催 東京都		
舞楽	春鶯囃	胡蝶	
演奏	多度雅樂会		
問合せ	℡03-3630-0038		
第四回 主韻会定期演奏会			（愛知）
2月9日（日）午後1時半	三千円		
名古屋市東文化小劇場			
管絃	平調調子	萬歳樂	
萬歳樂	（延只八拍子）	（延八拍子）	
特別演奏	催馬樂	老鼠	独唱
舞楽	陵王	貴徳	（管絃舞楽 鯉口面詠、番
客演			子あり 急残樂三返）
問合せ	豊靖秋師（宮内庁式部職樂部樂師）		
	℡090-9194-5600（柴垣）		

メール : shuinakai.07.25@gmail.com	
「第16回子供たちと芸術家の街あつ街」	ワーケーション（雅楽）（東京）
2月11日（火・祝）午前10時、午後1時	東京芸術劇場リハーサルルームM1
対象 小学生～高校生 1千円	出演 伶楽舎
問合せ Tel 03-5610-7275	（日本オーケストラ連盟）
天台雅楽会 埼玉演奏会 （埼玉）	2月11日（火・祝）午後1時
無料（電話にて事前申込み。先着30名）	コピスみよし（三芳町文化会館）
【舞楽法会】	【舞楽法会】
管絃と舞・声明を組み合わせた形の仏教儀式	管絃と舞・声明を組み合わせた形の仏教儀式
舞楽 伽陵頻急 寅臘破急 ほか管絃曲	舞楽 伽陵頻急 寅臘破急 ほか管絃曲
【講話】—雅楽のお話—	【講話】—雅楽のお話—
岩波滋（元宮内庁式部職楽部首席楽長）	岩波滋（元宮内庁式部職楽部首席楽長）
問合せ・申込み	問合せ・申込み
Tel 049-261-1997 徳性寺	Tel 049-261-1997 徳性寺
薬師寺の花会式	修二会薬師悔過法要（東京）
チケットプレゼント有り	チケットプレゼント有り
2月15日（土）午後1時	2月15日（土）午後1時
1等 5100円（学生 3600円）	1等 5100円（学生 3600円）
2等 4100円（学生 2900円）	2等 4100円（学生 2900円）
国立劇場 大劇場	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
演出 法相宗 大本山薬師寺	薬師悔過法 大導師作法 呪師作法
解説 花会式について	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
問合せ Tel 0570-07-9900	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
聖徳太子御正當会奉納舞楽	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
2月22日（土）午前9時半	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
舞楽 振鉢 承和楽 長慶子	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
演奏 天王寺楽所雅亮会	修二会薬師悔過法要（初夜行法）
四天王寺太子殿（大阪）	修二会薬師悔過法要（初夜行法）

問合せ	℡06-6641-0084
下鴨神社 御内儀祈禱祭	(京都)
2月22日(土) 午後4時より	
御神樂	早韓神
演奏	平安雅楽会
如月神明雅楽	(東京)
2月23日(日) 午後5時	
下神明天祖神社境内	
舞楽	早韓神
演奏	進蘇利古
雅樂道友会	
問合せ	℡03-3783-2371
天理大学雅楽部	(奈良・東京)
チケットプレゼント有り	
思想千十九年・源氏物語XV～若菜下～	
演目	伎楽、崑崙、平調、林歌、鶴徳、謡物、朗詠
管絃	竈笛、地久、太平樂
舞楽	
★第50回天理公演2月24日(月) 午後2時	
前売一千円	当日1500円
天理市民会館	
★第42回東京公演3月15日(日) 午後2時	
前売り二千円	当日三千円 全席指定
浅草公会堂	
問合せ	℡0743-63-4945
雅楽の館ひなまつりの雅楽	(富山)
3月1日(日) 午前10時 無料	
高岡市雅楽の館(高岡市福岡町)	
管絃	傾盆樂、伊勢海、輪鼓、裡脱
演奏	洋遊会
問合せ	℡0766-64-0390
雅楽コンサート	
3月8日(日) 午後2時	
2500円、大学生以下1000円	
保谷こもれびホール	
管絃	越え大樂、陪臯
舞楽	り、陵王
芝祐靖作曲	総角の歌

宮田まゆみ作曲 芝祐靖復曲 敦煌琵琶譜による音楽より 演奏 伶樂舎	<a href="https://www.komorebi.hall.jp">https://www.komorebi.hall.jp</a>
問合せ 〒042-421-2323	
3月12日（木）午後6時より 無料	
四天王寺五智光院	
管絃 初級・平調 越天樂 中級・盤渉調	
竹林樂 別科・黄鐘調 青海波	
舞樂 振鉾 承和樂 登天樂 長慶子	
問合せ Tel 06-6641-0084	
春日山春季彼岸会	（福岡）
3月20日（金）午前9時半	
春日山雅樂御堂 舞樂 曲目未定	
演奏 築紫樂所	
問合せ Tel 092-596-8585	
弥生神明雅樂	（東京）
3月29日（日）午後5時	
下神明天祖神社境内	
舞樂 春鶯囀颯踏 入破 敷手	
演奏 雅樂道友会	
問合せ Tel 03-3783-2371	
薬師寺 花会式	（奈良）
3月29日（日）	
舞樂 未定	
演奏 南都樂所	
石清水八幡宮 さくら祭	（京都）
4月3日（金）午後2時	
舞樂 萬歳樂 仁和樂 散手	（予定）
演奏 平安雅樂会	
問合せ Tel 075-981-3001	
賀茂川水宴 上賀茂神社	（京都）
4月12日（日）午後1時	
曲目未定	
演奏 平安雅樂会	

